

審 議 会 会 議 録 要 旨

会 議 名 称	第1回伊那市総合計画審議会
日 時	令和5年6月5日(月) 午後1時30分 から 午後3時30分 まで
場 所	伊那市役所 多目的ホール
出 席 者	委員26名(欠席者2名)
議 題	(1)総合計画の策定について (2)序論について

【議事要旨】

あいさつ(白鳥市長)

大変、お忙しい中、それぞれご出席を賜り誠に感謝申し上げます。この審議会では、今後5年間の行政運営方針となる総合計画後期基本計画及び土地利用計画の審議をお願いすることになる。様々な分野にわたる内容を審議していただくため、広くご意見をいただけるように地域・各種団体から推薦をいただいた皆様をお願いをしたところである。今回審議をお願いする次期総合計画はアフターコロナ・ウィズコロナを見据え、私達を取り巻く様々な変化に対応しながら、誰もが住み慣れた場所で暮らし続けることができる、誰1人取り残さないまちづくりを進めていくための市政運営の指針として、ご意見をお聞きしながら策定してまいりたい。これから11月ごろまで長期にわたってのご審議をお願いすることになるが、ぜひ皆様方の協力を賜ることをお願いし、挨拶とさせていただきます。

正副会長の選出

会 長 吉田 浩之氏 (伊那市議会)

副会長 栗原 敦司氏 (伊那商工会議所)

協議事項

(1)総合計画策定について

《事務局から説明》

○主な意見・質疑

(会長)

今回、基本構想は策定の対象ではないということによろしいか。

(事務局)

今回は、基本構想は策定せず、基本計画と土地利用計画の策定となる。

(会長)

今日説明を受けたところであり、今後の考え方や方向性の確認ということであるので、何かあれば後ほど出していただければと思う。基本的にはその方向で進めるということと、参考資料としてアンケートを計画策定の参考にさせていただいて、それぞれのご意見等を出していただければと思うので、お願いしたい。

(2)序論について

《事務局から説明》

○主な意見・質疑

(会長)

先ほど、説明のあったとおり、協議は次回の審議会で行うということであるので、今日のところは、確認という意味でわからないところがあれば、質問としていただければと思うが、いかがか。

(委員)

市民アンケートについてだが、次回で結構であるので、アンケートの内容を見せていただきたい。また、資料No.2の16ページに重要性が高い施策と重要性が低い施策があるが、この重要性というのはどのように決まっているのか。

(事務局)

アンケートの内容については、次回の会議のときにお示しする。重要性の高い低いについては、今回行ったアンケートの結果に基づいて重要性の高い低いを判断させていただいた。市民の皆さんが感じた重要性の高さの結果である。

(委員)

アンケートの中で施策の重要性が高いか低いかなようなことを聞いているということによるしいか。

(事務局)

その通りである。

(委員)

同じく市民アンケートのところだが、中学生アンケートで中学2年生を選んだ意図は。

(事務局)

伊那市の良いところを再認識してもらおうのと、伊那市が自分のふるさとという誇りや愛着の気持ちを醸成して、定住の地としての意識を育むということも目的としており、中学2年生はキャリア教育を受ける年であるので、その皆さんを対象にアンケートをした。

(会長)

中学生アンケートの対象者の箇所に5月1日時点と記載されているが、まだキャリア教育が始まっていない時期ではないか。

(事務局)

5月の時点で対象を抽出し、実際にアンケートを実施したのは10月である。

(委員)

先日、市民ワークショップがあつて私も出席した。こういう計画を作るときに市民の意見をどう総合計画策定の中に取り込むのか。計画樹立のプロセスの中でアンケートをしたのはわかるが、住民や地域の声をどう集約したり反映させるかというところである。私は、県の前回の計画の中で、地方版の委員として関わったが、こうした計画というのは、素晴らしい言葉を使って作られているが、どこのものも大体似ている。策定時にはコンサルタントが作った資料が出てきたりもする。それが5年経った時に、市民が計画を評価したり検証していくという場面は、ほとんどない。平成18年に合併した時に、合併以後は、地方自治が充実していくのだということを期待してたのだが、はたしてそういうことが本当に伊那市政の中で、各地域で実現したかということ。そういう検証をきちんとしていかないと、計画が計画倒れになることを常々感じる。平成18年からあと3年で合併20年になる。それを記念して伊那市が市誌を編さんするということで、私も策定に関わっている。まだ固まりきらないけれど、その中で一番考えるのは、委員の中で討議するのは、前期・後期の関係でどう取り組んだのか。伊那市の市政の中で、それがみんなに共有されて、こういう伊那市になった、だけど、ここが欠けてると。こういうものをどう伊那市の中で検証したり、さらに、将来どうあらねばならないのかというようなことを市誌の中で検討しているわけだが、非常に難しい。だから、序論における時代の潮流として、11項目の説明があつたが、これだけ諸団体の方々がいるのだから、もっと伊那市政の合併後の歩みをいろんなところから検証していくことからまず始めることが必要じゃないか。このあいだ県の5か年計画ができた際に、私達は、団体としてパブリックコメントで意見をかなり出した。この作成過程の中で、地域協議会等、地域がどう関わるか。市民がどう関わるか。パブリックコメントはどうするのか。もうちょっと丁寧に今後の審議会のスケジュールを示すことが必要ではないか。それから序論の検討に入るが、会議になる前に委員がそのこと

についての提案を事前に事務局の方へ出しておいて、できるだけ実のある討議をしたいということを思っている。

(会長)

今、2つの提案があった、アンケートをどのようにこの総合計画に入れ込んでいくのかという点の一つ。それからもう一つ、この内容を協議するにあたって、次回が協議・意見交換となっているが、その前に、事前に協議すべき内容をそれぞれの委員から事務局へ出したらどうかというようなお話もあったかと思う。意見等の提出は、会議のその場ではなくて、事前にとことかと思うが、そのようなことでよろしいか。

(事務局)

市民アンケートをどう反映していくかという点であるが、庁内策定委員会の中でもアンケートの結果を報告させていただき、原案作成の段階でも、後期基本計画の中にアンケート調査の結果を反映しているが、委員がおっしゃる通りの視点というのは非常に大事だと思うので、引き続き、この審議会の中で審議をいただきたいと思っている。また、市民の意見等は、市民に対するパブリックコメントを実施する予定であり、それに合わせて地域協議会と市議会の皆さんにも意見をいただく機会を予定しているため、そういった形で基本計画の中に市民の意見を反映させていくようにしていきたいと考えている。2点目のご提案に関しては、次の会議が実のあるものになるように、事前に書面で協議事項としていただけるものがあれば、事務局までご提出いただき、その内容も踏まえて次回の協議、審議をいただくような形としたい。

(会長)

今後も出てくると思うが、GX等のカタカナ語についての説明がどこかにあってもいいのかなと思う。これは当たり前前の普通の言葉なのだからと言われればそうかもしれないが、いろんな言葉に対して認識が違うかと思うので、できるだけ丁寧な説明が必要かと思う。ウェルビーイングとかそういった言葉もあるが、別の箇所でもいいので何か説明をいただけるのかどうか。

(事務局)

実際の計画冊子を作り上げた段階では、用語解説が冊子の中に掲載される予定であるが、会議の中での説明が必要かと思うので、なるべくわかりやすく解説をつけるような準備をしたい。

(会長)

もし、この会議後に、本日説明のあった内容について確認をしていただく中で、わからないところや質問したいところがあれば、ペーパーで事務局へ出していただければと思う。説明を聞きながら、その場ですぐに質問というのはなかなか難しいかもしれないので、時間をおいてみると、わからないところや確認したいところがあるかと思う。そういった意味でも、委員の皆さんもしっかりと資料を読み込んでいただき、配布された前期計画の冊子と読み比べるなどもしていただいたうえでご質問等をいただいて、次回会議に活かせればと思うので、よろしく願いしたい。

以上